

「一家に一台」から「一人に一台」 ～携帯電話・PHSについてのアンケート調査結果～

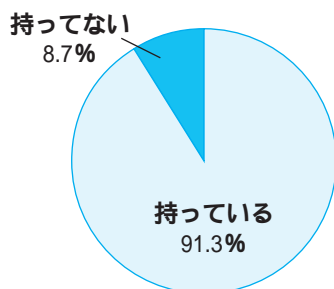
「アンケート実施要項」

調査時期	2001年5月
調査方法	当行営業店を通じて任意の顧客に配布し、郵送で回収
調査対象	福岡県内の在住者2,000人（うち有効回答者数906人）
回答者の内訳	20代 35%、30代 26.7%、40代 25.2%、50代以上 12.7% 男性 35.9%、女性 63.6%、

携帯電話・PHSの6月末の契約数は全国で6,300万台を超え、3月末の福岡県内の携帯電話・PHSの普及率は55.3%（九州総合通信局調）と発表されています。1995年7月にPHSがスタートして7年、今では「小学生の5人に1人、中学生の3人に1人が携帯を持つ」（週刊ダイヤモンドより）といわれ、携帯を片手に歩く人の姿が日常的に見られるようになりました。そこで、ますます身近になっている、携帯電話・PHSの県内の状況についてまとめてみました。

1. 携帯電話・PHSを持っている人は全体の9割超（図1）

図1 携帯電話所有状況



99年に当行が実施した「情報通信機器に関するアンケート」に比べ所有している人の割合は全体では7.4ポイント増加しました（表1）。割合が高いのは男性ですが、過去2年間の伸びは女性の方が高くなっています。年代別では20代が98.1%とほとんどの人が所有、年代が上がるほど少なくなっていますが、50代以上でも75%以上の人を持っています。また、一世帯の平均保有台数は2.1台です。

表1 携帯・PHSを持っている人

（%）

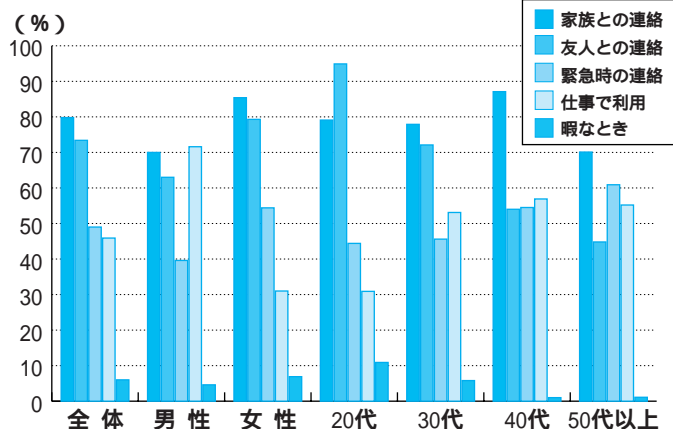
	97年	99年	01年	年代別（01年内訳）			
				20代	30代	40代	50代以上
全 体	71.1	83.9	91.3	98.1	93.3	88.6	75.7
男 性	75.2	86.8	93.2	97.7	97.0	88.5	86.0
女 性	67.1	80.4	90.6	98.3	90.8	88.6	69.4

2. 利用目的の7割以上は「家族・友人との連絡」、「仕事」は半分以下

全体では「家族との連絡」が最も多く、次いで「友人との連絡」となっています（図2）。年代別でみると、20代では「友人との連絡」が一番多く9割を超え、特段の用事が

なくても電話をかけている模様です。また、約11%の人は「暇なとき」に電話をかける
と回答し、「仕事での利用」は他の年代より20ポイント少なくなっています。年代が高くなる
ほど利用方法に偏りはなくなっ
てきていますが、30代以上では5割
以上の人が仕事で利用しています。
なお、年代が高くなるほど「仕事での
利用」が増えてきているのは、仕事上
の必要性がそれだけ増しているため
と思われます。男女で見ると男性
の方が71.6%と多く、女性の倍以上
となっています。

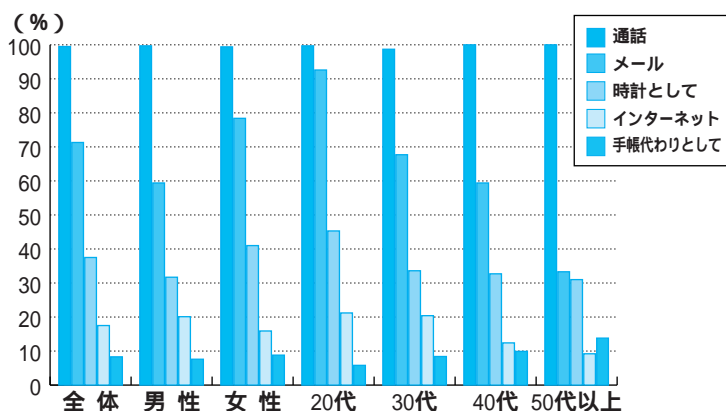
図2 利用方法(複数回答)



3. 「通話」以外の使用方法は「メール」が中心

全体で約7割の人が使用料の安い「メール」を利用しています(図3)。年代別では20代
の9割以上がメールを使い、年代が高くなるほど少なくなっています。ただし、40代で
も約6割がメールを使用しています。男女では女性の方がメール利用回数が19ポイント
上回っています。1日の平均メール回数5.3回に対して、通話回数は4回で、メール回数

図3 利用方法(複数回答)



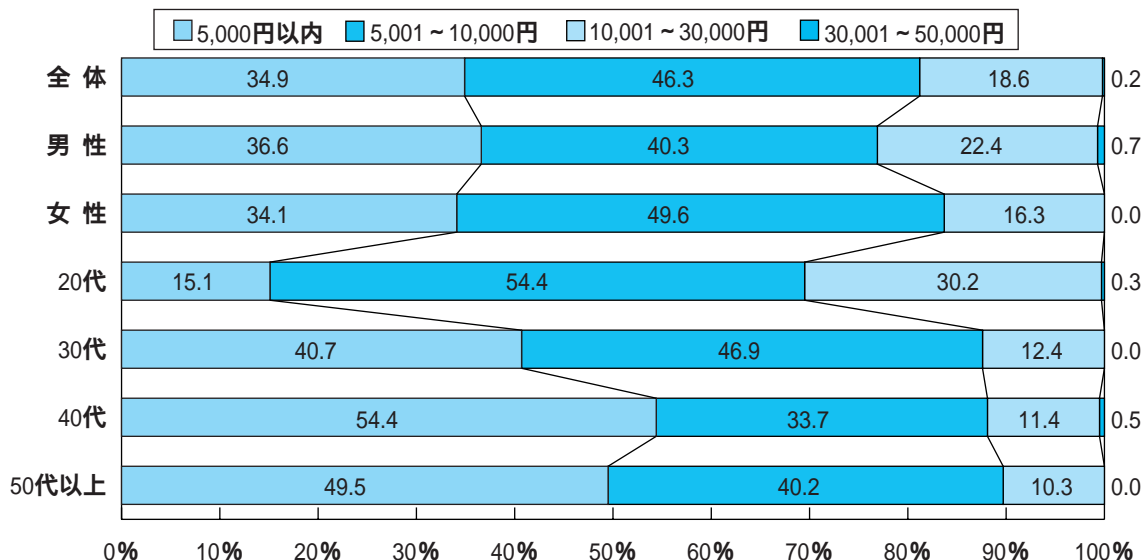
が通話回数を上回っています。メ
ールの方が通話よりも料金が安く、
長い文章でも送付可能で、記録に
残せ加えて相手は都合のいいとき
に見ることができるというメリッ
トがあるためと思われます。電話
機としての利用以外に40%弱の人
が「時計代わり」をあげています。
「インターネット」は意外に少なく
17.5%でした。

4. 1台の1か月平均電話料金は6割が5,000円以上

1台当りの電話料金で支払い区分が一番多いのは5,000円超10,000円以下で45.2%、次
が5,000円以下で34.9%となっています(図4)。年代別では20代の30%が10,000円超で、
他の年代より支払額が高く、30,000円超50,000円以下の人0.3%います。なお、世帯で
の電話料は8割以上の方が30,000円以下で、約5割の人は10,000円超30,000円以下とな
っています。家計への影響については、「負担になっている」と思う人47.3%、「負担には
思わない」人が51.9%と大差はありません。また、年代別で一番負担を感じているのは40

代で51 %が「負担に思う」と答えています。これは、家族の分の支払いもあることから、負担感が大きくなっている為と思われます。

図4 1か月の平均電話料(1台)

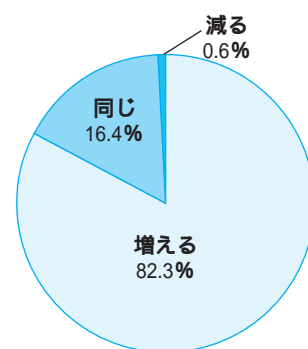


5. 利用は今後も増える

今後の携帯利用については、全体で8割以上の人が「増える」(図5)と回答し、「減る」という人はわずか0.6%でした。年代別では20代の8割以上は「増える」と答えています。また、「増える」という人の割合が多かったのは50代以上の90.8%、少なかったのは30代の76.5%でした。

通話やメールだけでなくニュースや情報を得たり、携帯ネット通販で物品を購入したり、さらには音楽配信サービス等の利用や次世代携帯サービスが始まるなど、携帯電話の利用はこれから一層加速されるものと思われます。

図5 今後の利用状況



まとめ

現在、携帯電話の所有率は既に9割を超え、家族全員が持っている家庭も少なくありません。これから持ちたい、あるいは子供に持たせたいという人もいて、携帯を持つ人は今からも増え続けるものと思われ、「一家に一台」から「一人に一台」の時代になる日は近いようです。また、8割の人が利用回数も増えると回答しているように、いつでも・何処でも・簡単に電話ができ、連絡が取れるということから、携帯電話の利用は増えることが予想されます。一方、携帯電話の利用料金については6割が5,000円以上を超え、全体の約半数の人は負担を感じています。携帯電話料金と家計の関係は見過ごせなくなっているようです。

(松本)